

1 教育目標

人間性豊かな東港中学校生徒の育成

- 明るく、たくましい心身を育てる。
- 自ら進んで学習する態度を養う。
- 情操を豊かにし、礼儀正しい生活習慣を育てる。
- 協力して奉仕する態度を養う。

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

(1) 努力点

『じりつ』（自律・自立）できる生徒の育成

(2) 努力点設定の理由

義務教育が終わる中学生において、将来、他への従属から離れて独り立ち（自立）ができるように指導していくことは中学校の義務である。また、自立し社会で生きていくためにも、自分自身で立てた規範に従い行動すること（自律）が大切である。

本校の生徒は、挨拶がよくできる。また、友人に対して思いやりをもって行動できる生徒が多い。また、授業にもきちんと取り組んでいる生徒がほとんどである。さらに、言われたことはきちんと取り組もうとする姿がよく見られる。しかし、その事象がなぜそうなるかなど理由を考えることや自分なりの意見をもつことが苦手であると感じる。また、基礎的・基本的な学力がまだまだ足りない現状がある。そのため、『じりつ』できる生徒を育成するためにも、「自分で考え判断する力を養う」とことと「基礎・基本の定着」が必要であると考えた。

そこで、自分で考え判断する力を養うために、学びのコンパスを踏まえ、自分に合ったペースや方法で学ばせていく。そのための授業改善を行う。また、基礎・基本の定着を図るために、タブレットのドリルアプリを使用するなど、ICTを活用することとする。これらを通してテーマに迫っていきたい。

(3) 昨年度の成果と課題

学校関係者評価として、『じりつ』というテーマは、本校の生徒に必要な力である。今後も生徒の良い変容が現れるように、実践を続けてほしい」という意見があった。今後は、学習の基礎・基本の定着について、基礎学力コンクールをさらに活用するなど、改善させていきたい。

(4) 本年度の取り組み

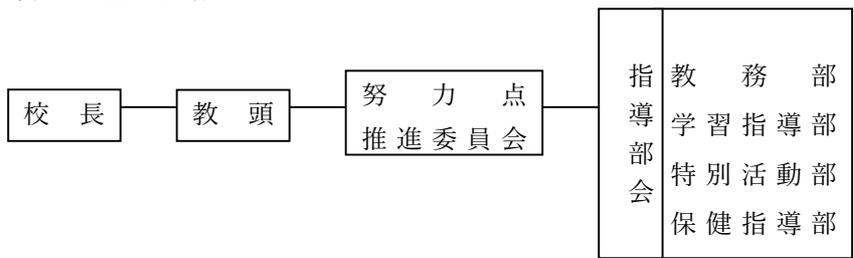
ア 自分に合ったペースや方法で学ばせていくための授業づくり

- どのように学ぶかを重視しして、できるだけ単元を見通して計画をする。

イ ICT活用による基礎・基本の定着

- 朝学習等の時間を使って、タブレットのドリルアプリを積極的に活用する。
- ドリルアプリで練習の成果を、基礎学力コンクールで実感させる。

(5) 努力点推進組織



(6) 具体的な取り組み

- 各教科で1人の実践者を決めて、実践を行う。(音・美は2教科で1人)
- 実践者は、どのように学ばせるかが分かるように計画表をつくる。
- できるだけ、実践の授業はお互いに参観する。(同教科は特に)

(7) 努力点推進の年間計画

月	自分に合ったペースや方法で学ばせていくための授業づくり	ICT活用による基礎・基本の定着
4	【努力点推進委員会】 努力点の決定、教育課程、指導方法の検討	
	<教科部会> ○ 内容の検討 ○ 実践者の決定	<学年会> ○ コンクールの日程決め ○ ドリル練習計画
5		○ ドリル練習開始
6	○ 授業実践	○ 基礎学力コンクール1回目
7	1学期の反省と2学期に向けた取り組みの検討	
9	○ 研究発表	
10	○ 授業実践	○ 基礎学力コンクール2回目
	【中間報告会】	
11	○ 授業実践	
12	2学期の反省と3学期に向けた取り組みの検討	
1		○ 基礎学力コンクール3回目
2		
3	【最終報告会】	